

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 12日

事業所名 littleデイズ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			室内環境が明るく広く見えるよう窓から光を取り入れ、家具も安全に配慮した配置にしている。	
	2	職員の配置数は適切である	6	1			コロナ感染症に関わる急な勤務時間の変更や調整が多く、人員確保の為、急な勤務変更に対応しなければならない期間があった。少ない職員数なので人員確保が課題である。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			エレベーターや手すりの設置をしている	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			月に一度のミーティングは全員参加で、職員が意見しやすい雰囲気づくりを心掛けている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	2		アンケートはみんなで見返し業務改善に向け話し合ったり情報共有している	新規で入った職員には周知できていなかった部分があったようなので気を付けるが、業務改善に繋げている現状がある。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6		1		正式に外部評価を行ってもらえていないので、取り入れる
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7				
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	2			主に管理監督職のみで行っているので広く意見を取り入れるようにする。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2		個に応じた教具を手作りしたりアレンジした遊びをするなど工夫している	個人によっては、長期化し同じような遊びに限られてしまう子もいるので配慮する。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1		長期休暇中はイベント参加や外出など集団活動に重きを置いて支援している。平日は個別の支援をじっくり行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1		日によって時間配分のバランスは異なるが、個別も集団も適宜取り入れて支援を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	3		午前中の時間に昨日の伝達事項や打ち合わせを行う。	昼からの非常勤職員の中では、周知できていない者もいるので、連絡ノートの活用をする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	2	終了時には職員が揃っていないので、翌日行うようにしている。緊急なことや連絡事項全体連絡網で共有している。	伝達事項以外の細かい振り返りや打ち合わせは、メインの職員の話し合い+連絡ノートを活用する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			個別記録をとり、モニタリングなどの資料として使用している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	1	1		地域交流など薄い部分もあるが意識して行っている。ガイドライン総則の基本活動自体を知らない職員もいるので事業所内研修等で全体へ周知する必要がある。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	7			主に児発管が出席して いるが、会議前には事 業所内で情報共有や振 り返りを行い、正しく伝え られるようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡 調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連 絡)を適切に行っている	7				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	/	/	/		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	6		1	情報共有を目的とした会議を開 いてもらったり。以前の情報を 保護者の同意をもらい共有して いる。内容も職員全体へ周知し ている	今年度は新1年生がいなかったので就学前の園とのやりとり がなかった。次年度は2名いるので行う予定
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行す る場合、それまでの支援内容等の情報を提 供する等している	6	1		情報共有を目的とした会議を開 いてもらったり。こちらの情報 を保護者の同意をもらい共有し ている。会議が無い場合は児童 の紹介シートを作成し保護者の 同意のもとお渡した。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	6	1			管理職や児発管のみ受けていて、周知でき ていない部分もあるので職員への報告まで 必ず行うようにする。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	3		コロナ禍にある為計画的な実践が難しかった。落ち着いたら行いたい。散歩コースの公園などで地域の人や 放課後児童クラブの子ども達との自然な交流は行って いる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	3	4			管理職や児発管のみ参加していて、周知で きていない部分もあるので職員への報告ま で行うようにする。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	7				
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	5	1	1		日常的にその都度お便り帳やお電話などで相談を受ける体 制を整え実践している。こちらからのアクセスが必要な場合は 担当の相談員を交えて方向性を相談し共有するようにしてい る。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	7				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	7			お便り帳の活用をしたり、午 前中の電話相談などを受け付 けている。いつでも相談しやす い関係性作りを努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	1	3	3		以前は行っていたが今年もコロナ禍にある 為実践が難しかった。落ち着いたらまた計画 していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	7			苦情対応マニュアルを 作成し、苦情解決セミ ナーに参加し、事業所 内研修を行った。今後さ らに改善が見込めると 思う。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	7			写真付きの事業 所だよりを毎月 発行している	
	35	個人情報に十分注意している	7			個人ファイルは鍵付き書庫で保 管、職員への契約書や保護者 に写真掲載の同意書へサイン ももらっている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	7			話すのが苦手な子へハンドサイ ンでやりとりしたり、特性のある 保護者への文面でのやりとりな ど、工夫している現状がある。	現状を全職員へ周知し全員が同じサインでやり取りできるよう に周知する。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	1	4	2		コロナ感染症が落ち着いたら、作品展を開くな ど、当事業所に出来る内容を協議し計画してい きたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7				
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			児発管が代表で受け、それを事業所内研修という形で全職員へも周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	1			身体拘束が必要な児童がいない。身体拘束の定義もあやふやな職員もいるので、事業所内研修などの勉強会なども実施するようにする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			食物アレルギーの子も食べられるおやつを保護者から情報共有し、みんなと同じ内容のおやつを食べる日も作っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	3	1		ヒヤリハット事例集や事故防止マニュアルの活用、事故・けがの記録など作成しているのもっと広く職員に周知し活用していく。